

トルコギキョウつぼみ期収穫切り花の人工開花技術

切り花のつぼみ期収穫は、収穫後の開花調節による計画出荷、害虫の花内侵入回避、栽培期間の短縮による施設の有効利用などメリットが多い。そこで、今回、トルコギキョウのつぼみ期収穫切り花におけるショ糖の吸収効果と開花環境を明らかにし、開花処理技術を開発した。

内容

1 開花処理に適するつぼみのステージ

収穫は頂花の開花後第2花の花色が確認できた時点以降とする(写真1)。それより早いステージでは開花しにくい。

2 開花液組成

ショ糖(上白糖)2%、イソチアゾリン系抗菌剤(市販商品規定濃度)を水道水で希釈する。ショ糖の添加により花色が濃くなり、水道水への生け花後、多くの小花を開花させることができる(写真2、図)。さらに、日持ち日数がほ場で開花させて収穫した慣行切り花より増加する。ただし、ショ糖濃度が高すぎると葉の褐変などの障害を生

じることがある。

3 開花環境(開花室)

気温15~25℃、照度1,000ルクス、日長12時間とする。25℃では1週間程度で開花する。温度を低くすると開花日を遅らせることができる。

普及上の注意事項

品種によっては障害を生じることがあるので、初めての品種では試験実施が必要である。開花室は作業棟の一角を仕切り、白色蛍光灯やエアコンを設置することで対応できる。

山中 正仁(農産園芸部)

(問い合わせ先 電話:0790-47-2424)



写真1 収穫可能つぼみステージ
品種「ラムレーズン」



写真2 開花時の状態(処理後6日)
左・中:ショ糖あり 右:抗菌剤のみ

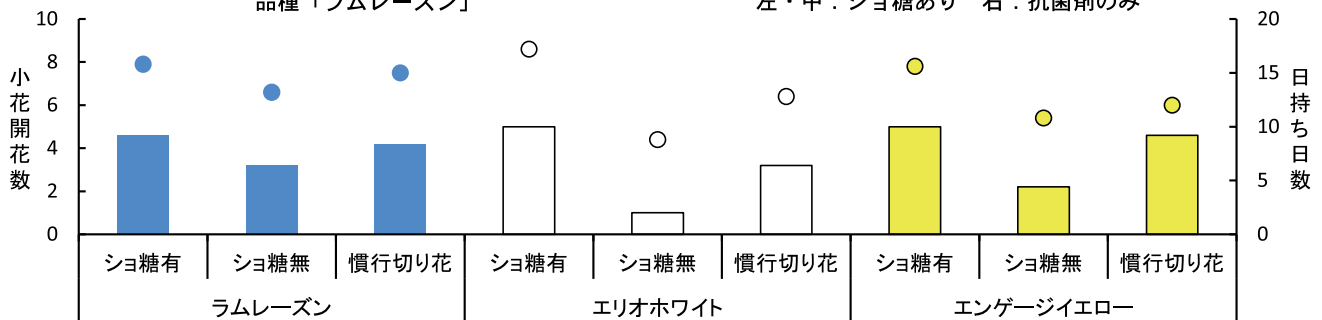


図 トルコギキョウつぼみ期収穫切り花の開花処理における品種ごとのショ糖の効果
 ショ糖有:ショ糖2%+抗菌剤、ショ糖無:抗菌剤のみ、小花開花数:2輪開花後水道水に生け替え7日後に調査、■:小花開花数 ●:日持ち日数